

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200156		
法人名	株式会社 ハートフルケア		
事業所名	グループホーム ひなた庵		
所在地	栃木県足利市小俣町291-3		
自己評価作成日	平成22年11月25日	評価結果市町村受理日	平成23年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成22年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所してまだ、1年半であり、地域にもっと事業所を知ってもらい為に出来る限り地域に関われるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市西部の古くからある閑静な住宅街に、入居者の生きがいと尊厳のある自立した生活の支援と自己決定ができるように高度な介護技術を活かしながら支援する事を基本理念に掲げ、昨年度、小規模多機能型居宅介護事業所との併設により新設されたホームである。開所時の内覧会には100名を超える多数の地域住民の来所があった等、地域からの期待も大きいことがうかがえ、自治会行事への参加等、地域と交流に積極的に取り組んでいる。食事は家庭に居る時と同じように職員と入居者が一緒に当日の献立を考えている。また、外出等も入居者の希望により日帰り温泉に出かける等、生きがいと楽しめる支援に取り組んでいる。ホームの共用部分は自然木が敷き詰めてあり、温もりのある居心地よいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示板に掲げており、常実践すよう心掛けている。	「心地よい場所・最期まで入所者が自分自身でいられること・意欲や興味を引き出し、瞬間的でも充実感、達成感、楽しみがあること」の独自理念をつくりあげており、玄関に掲示すると共に職員会議等は復唱する等、周知に努めながら実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入会し、出来る限り地域の行事等に参加するように心掛けている。また、地域を散歩し、地域の人たちとの交流に取り組んでいる。	自治会に加入しており、地域の夏祭りへの参加や子供達の地域めぐり神輿等に協力している。散歩時にも地域住民との触れ合いを大切にしており、野菜の差し入れ等もある。また、ホームのイベント時に地域住民がうどんを打ってくれたりしており、地域との相互交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して推進委員に活動内容を報告し、色々な意見を聞き、サービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は2か月に1度、入居者、家族代表、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員等の参加により開催している。会議ではホームから事業報告を行い、参加者から助言や提案等、様々な意見を出してもらい、そこでの意見を検討しながらサービス向上に活かしている。	運営推進会議の構成員は同じメンバーだけでなく、例えば、火災や防災等を議題とする場合は、所管の消防署員や警察署員の参加の検討をしたり、自治会からの参加についても引き続き要望していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設での取り組みの相談はもちろん、施設の見学者や他の相談事についてもわからない事はいつでも連絡を取っている。	運営推進会議に市職員も参加をしており、ホームの状況や課題等も把握してもらっている。月に1回、市担当者へ更新申請や相談に行っている他、電話等でも随時連絡を取り合ったりする等、密接な関係となっている。また、ホームの所在地が県境であることから、隣接する桐生市等との関係も良好となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな入居者についても身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について職員は理解しており、拘束の無い支援に取り組んでいる。玄関には人の出入りを知らせる鈴を付けているが、職員の見守りにより日中は施錠をしない支援に取り組んでいる。	

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の入居者に対する虐待は無いように常に目を配っている。また、入居者同士に対しても喧嘩等にならない様に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の二人が成年後見人制度を利用しており、職員には必要性を話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者との契約に当たっては、必ず、家族が立ち会い、十分に説明し、納得してから行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族が来所等には、職員から施設に対して「何かありますか」と問いかけるようにしている。	運営推進会議には入居者及び家族代表の参加があり、意見や要望等の確認を行なっている他、家族の日々の来所時にも職員から率先して声掛けを行い、入居者の状態等を知らせると共に、意見や要望等の収集に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや定例職員会議等において、意見を聞き、取り組んでいる。	職員は朝夕の申し送り時や職員会議等で管理者に意見や提案等を表す機会があり、管理者も直接支援に当たっている職員からの提案等を重要なものと捉え、要望に応じられるよう検討を重ねている。また、職員の意欲や資質の向上にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に職員を配置し、向上心を持って働ける環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外で研修(認知症実践者研修等)が学べるように機会を設けている。また、新しい職員については、必ず、教育する職員を付け、現場を学ばせている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、足利市の施設職員（管理者、主任等）と交流を持ち職場に生かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回利用時の前に在宅訪問し、本人の意思、思い等を聞くように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族からも現在困っている事や不安な事を聞くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとはどんな所なのか十分な説明をし納得した上で支援している。また、他利用サービスも含めた話も同時に話すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日を通して職員と入居者が会話をする機会を持ち、入居者中心の中から信頼関係を築くように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所時には、現在の本人の様子や思いを出来るだけ伝え共感を持ってもらえるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に行ったりして関係が続くように努めている。	家族等から入居前の交友関係や生活状況等の情報収集に努め、家族の協力を得ながら馴染みの場所や人との関係が継続出来るよう取り組んでいるが、なじみの場所等を訪問することにより、不穏になったり、帰宅願望が出てしまう事もあり、課題でもある。	

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関われるようにテーブルの位置やホール環境を工夫するように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、開所以来、退所者はいないが、サービス利用が終了した入居者の状態によっては関係が継続するようにと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全体で個々の入居者の思い、希望を出来るだけ取り入れられる様に取り組んでいる。	職員は入居者となじみの関係を築いており、会話やしぐさの中から思いや意向の把握に取り組んでいる。編み物をしたい、お饅頭を食べたい、神社に散歩に出かけたい等、入居者一人ひとりの思いや意向に応えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴等を把握し本人に合った過ごし方が出来るようにと努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して個々の行動や排泄パターン等を日々観察するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らせるように家族(キーパーソン)や必要な関係者を同席するよう努め介護計画を作成している。	本人及び家族の要望や日頃の生活状況を把握したうえで、介護計画を作成している。3か月毎に職員の意見等も参考にしながら見直しを行なっている他、入居者の状態に変化が生じた場合には、随時見直しを行い、現状に即した介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に関しては、抽象的な言葉は記入しないように心掛け、具体的な言葉(本人の言葉含む)で記入し、誰でもが情報共有するよう努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の家族関係を考慮しながら一緒に成年後見人制度に携わり柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日、施設周辺の散歩等を通して地域の人たちと交流を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	てらうち内科小児科医院と協力提携を結んでおり、連携を取りながら支援を行っている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医での受診を支援しており、通院の付添いは原則家族にお願いをしている。受診結果や服薬に関する情報も家族と共有している。毎月、協力医による定期往診がある他、入居者の体調による随時の往診もある等、入居者の健康管理にも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置されていない。しかし、同一敷地内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連携を取りながら日常生活の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の病状により入院の場合は、てらうち内科小児科医院を通して入院先を決めたり、情報交換を行いながら早期退院が出来るように努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに対しては、本人、家族、主治医と綿密に相談しながら方針を決める様に努めている。	ホームでの重度化やターミナルケアへの対応については、本人及び家族の要望に対応できるように準備をしており、本人の状態に応じながら、家族や主治医等との話し合いにより、対応方針を確認している。	ホームでは重度化や終末期への対応も積極的に行なって行きたいと考えていることから、職員と認識を共有すると共に今後、ホーム独自の指針の作成や家族から同意書を取る等の取組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置等の実践的な訓練は行っていない。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成22年度は夜間避難訓練を4月28日に行っている。	年2回の防災訓練を予定しており、4月には消防署員立会いの下で夜間時を想定した避難訓練を実施している。災害時等には、自動で職員の携帯に繋がる緊急連絡システムが設置されている他、今年度中にスプリンクラーの設置も予定している。	災害時における職員での対応の限界も考慮しながら、今後、運営推進会議等を活用し、災害時における地域との連携体制の構築に向けた検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者に対して言葉や行動に十分注意を払うように努めている。	入居者一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでおり、馴染みの関係であっても言葉使いや態度には節度を持って支援する様、職員に注意を促している。入居者の呼び名は「さん」付けで呼んでおり、日々の言葉かけや誘導はさりげない声かけに努め、本人の羞恥心や他入居者にも配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の入居者に対応して各々の考えている事に耳を傾け、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人、家族等の思いに合わせ、日々の生活を支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容については、地域の店に行ったり、また、施設で出張サービスが行われるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必ず、朝昼夕とも職員と一緒に入居者が台所に入り調理している。また、準備や片付けも一緒に行っている。	入居者の中には食事の接待や調理が好きな人もいることから、無理のない範囲で職員と共に食事の準備や片付けを行なってもらっている。献立は当日の担当職員が考えており、職員も入居者と共に同じ食事を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の入居者の食事摂取量や水分等については毎日、変化がないか確認し支援している。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをするように取り組んでいる。義歯(口腔状態)については、近藤歯科の往診で対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康チェック表を活用し、排泄パターンを予測して失禁等をしないように取り組んでいる。	排泄はほぼ全員の入居者が自立している状況にあるが、健康チェック表を活用して、一人ひとりに何気ない声かけや誘導により、自立した排泄が継続できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者については、排泄パターンを予測して水分を多く摂取したり、また、お腹をさすったりと取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者に対して1回/3日のペースで入浴が出来る様に努めている。また、本人の身体状況に応じて柔軟に支援している。	入浴は1日に3人程度で昼食後から夕方時間帯を入浴時間として支援している。入浴に拒否傾向がある入居者には、タイミングを見計らいながら声かけし入浴に繋げている他、職員は必要以上の介助は行なわず、手の届かない部分への介助や見守り支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者に応じてソファを活用したりして転寝等を自由に出来るように支援している。就寝については入居者が自分の時間で自由に横になれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬内容は職員全員が理解するように職員会議で周知している。服薬内容が変わった入居者については、新しい処方箋を申し送りノートに挟み理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何か日常生活で役割として関わりたい入居者や趣味(編み物等)をしたい入居者等に対して柔軟に支援するように努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、施設周辺の散歩やドライブが出来るように外出支援に努めている。家族等からの外出についてもいつでも外出可能な様に取り組んでいる。	ホーム周辺への毎日の散歩や近くの松田川ダムまでドライブに出かけたりしている他、国道50号線沿いの温泉施設に出かけることも多くなり、入居者の希望に沿った支援に取り組んでいる。家族と一緒に外食等に出かける入居者もあり、外出が楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと個々の入居者のお金を預かり、必要時に使える様努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状況により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には殺風景にならない様に草花を置いたり、季節感漂う飾りをつけたりと工夫するよう努めている。	共有空間は木材が多用され、温もりあるゆったりとした空間が確保され、日差しが入る窓際には畳のスペース等があり、和みの場所となっている。壁には家族から寄贈された額が数か所に飾られている他、ホームの庭や散歩の際に摘んできた草花も飾られる等、季節感が醸し出されており、入居者はソファー等で思い思いの時間を過ごしてる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で気軽に座って過ごせる量があったり、ソファーに何人か座りながら過ごせる空間があったりと入居者が一人になったり、また、入居者同士交流が持てるように場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、特に制限はなく使いやすい様に本人・家族の意向を取り入れている。	本人や家族に今まで使い慣れた物等の持込みを促しており、各居室には使い慣れたテレビやコタツ等の電化製品や家具類が持ち込まれている他、家族の写真等の小物類も持込まれている。入居者が居室で居心地よく落ち着いて過ごせるよう、工夫をしながら支援に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動、排泄、入浴等を含め、声掛け見守り一部介助をし、自立に向けるよう努めている		